

# 令和6年度 鹿屋中央高等学校入学試験問題

## 国語

### 注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて九ページです。これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 3 受験番号は、解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従って、**すべて解答用紙に記入しなさい。**
- 5 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

受験 番号	
----------	--

1

次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。

- (1) けが人をキユウゴする。
- (2) 話し合う場をモウける。
- (3) 費用の一部をフタンする。
- (4) 日本社会の変遷を学ぶ。
- (5) 怒りを抑える。
- (6) 要求を一蹴する。

2 次のような、行書で書かれた漢字の特徴を説明したものととして、最も

も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

# 紙花樹

- ア 行書では、点画を省略した場合でも筆順は変化しない。
- イ 楷書に比べて、行書は速く書くことができる。
- ウ 楷書に比べて、行書は点画の形や方向が変わることがある。
- エ 行書では、払いやはねの部分を直線的に書くのがよい。

2

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

2021年10月28日、米フェイスブックは社名を「メタ (Meta)」に変更したことを発表した。同社の最高経営責任者 (CEO) であるマーク・ザッカーバーグによれば、同社では今後、SNS事業に加えて「メタバース」の構築の事業への広がり予想されるため、それに少なくとも約100億ドル (約1兆1000億円) の投資をおこなうとともに、社名を変更したという。

改めて説明するまでもないだろうが、「メタバース」とはオンライン上の共有型仮想現実空間のことである。たとえば、人気ゲーム「あつまれどうぶつの森」もそのひとつと言えるが、ネットを介して多くのプ

レイヤーの動かすキャラクターがそこに参加しており、ときには単独でときには協調してミッションをクリアしていく。

同じようなゲームやシステムは以前からほかにも無数にあった。

ただ、最近になってこの「メタバース」に大きな変化が生じた。それは、VR (仮想現実 Virtual Reality) ゴーグルを装着することなどによって、キャラクターではなく自分自身としてその空間に参加することができるようになったのだ。

**a**、画面越しに仮想現実世界を見たり操作して、中のキャラクターを動かしたりするのではなく、自分がアバターとなって空間に入り込んで、手足や口を動かして歩いたり話したりする。たとえば、そこで音楽ライブがおこなわれていたとすれば、現実と同じような感覚でステージを見あげ、手拍子やダンスができるというわけだ。

フェイスブック改めメタがリリースしている「ホライズンワークルーム」というバーチャル会議室のシステムでは、参加者はアバターCGで作られたアバターを通してテーブルについて会議に参加する。

それだけなら従来と変わりないように見えるが、現実での参加者はVRゴーグルなどのヘッドセットをつけているため、会議室にいるように隣に座った人の声がその方角から聞こえてくる。

**b**、仮想空間の中で、テーブルの上にあるPCのキーボードに入力したりモニターに資料を映したり、ホワイトボードに書き込んだりすることも可能だ。もちろん実際に手を動かしているのは、現実空間にいる自分自身なのだが、VRゴーグルを装着しているために参加者は仮想空間の中のアバターが手を動かしたり、モニターを見たりしている感覚を味わう。

「仕事にはアバターで参加できるから、もうビジネス用の洋服もいら  
ないし、もちろん化粧や髪の設定も必要ないですよ」

②メタバースが生み出すビジネスの未来についてゼミで発表してくれた

学生は、そう言って言葉を続けた。

「音楽や本もサブスク（サブスクリプション）のダウンロードですむから、CDや本を収納する棚もいらぬ。パソコンがなくてもVRゴーグルだけでメタバースに入れるようになりつつあるので、それさえあればどこに行っても仕事やライブ鑑賞なんかができる。家もいらなくなると思いますが、それにあわせて、住まいのサブスクも生まれつつあるんですよ」

つまり、月額一定料金を支払えば、全国各地で簡単な電化製品などが備えられた部屋やホテルに泊まれるサブスクが実際にいくつもあるのだという。

「もしそこが気に入らなければ腰を落ち着けて住むこともできるし、あちこちに移動しながら仕事してもよい。将来はそんな暮らし方があたりまえになると思います。学校もサブスク化して、親といっしょに移動しながら、今月は鳥根の中学で授業を受けて、来月は山形の中学へ、みたいになるか、完全にメタバース化されて学校からだを運ばなくても授業が受けられるようになる可能性も高いと思います」

3年前なら、そういった話に対して「いや、でも実際に生身のからだを学校に運び、多くの生徒が教室で同じ空気を共有することにこそ教育の意味がある」などといった批判を述べる人もいただろうが、コロナ禍が状況を一変させた。

メタバースの学校は感染対策という意味では完璧だし、多くの大学でリアルな授業の代替として始まったはずのオンライン授業は学生たちから好評を博し、「コロナ禍が収束しても授業によってはオンラインを継続してほしい」という声が大きい。

とくに興味深いのは、「ヒトのモノの消失」というこの変化は、検討を重ねた末に意思的に選択されたものではなく、「安くて便利なサブスク」として出現し、「コロナによるパンデミック」という想定外の事

態で加速度的に普及している、ということだ。

いや、技術の爆発的な拡散は、いつの時代でも慎重に選り取られてではなく、こうやって、たまたまのきっかけで起きてきたのだろう。

とはいえ、今回のこの変化は、所有や存在、さらには「現実とは何か」「身体とは何か」「人と人とのつながりとは何か」といった人間にとって本質的な概念や問題を根底から塗り替えるものであり、「安くて便利だから」とすべてを受け入れてよいのだろうか、という疑問が残る。

（香山リカ『デジタル依存症の罠——ネット社会にどう対応するか』による。問題作成のため、本文の一部を改めた。）

（注）サブスク（サブスクリプション）＝製品やサービスなどの一定期間の利用に対して、代金を支払う方式。

1 本文中の **a**・**b** にあてはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア (a) そして b だが ( ) イ (a) すなわち b よって ( )  
ウ (a) ただし b あるいは ( ) エ (a) つまり b また ( )

2 次の文は、——線部①について説明したものである。②には最も適当な七字の言葉を、③には最も適当な十字の言葉を本文中から抜き出して書け。（句読点も一字と数える。）

画面越しにキャラクターを操作するのではなく、VRゴーグルなどの装着により、**I** となつて空間に入り込んで、歩いたり話したりし、仮想空間の中で、**II** を味わうことができるようになった。

3

——線部②とあるが、この学生が話していることにあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えよ。

ア 音楽や本もサブスクのダウンロードですませることににより、CDや本を収納するための家具をそろえる必要がなくなる。

イ パソコンがなくてもVRゴーグルでメタバースに入り、アバターで仕事やライブ鑑賞に参加し、楽しむことができる。

ウ 住まいのサブスクとして、月額一定料金を支払えば、全国各地でアバターが部屋やホテルに泊まれるサービスもある。

エ どこにいても仕事に参加することができ、ビジネス用の洋服を着たり、化粧や髪のセットをしたりしなくてよくなる。

4 ——線部③とはどのようなことか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 感染対策上、リアルな授業の代替だったオンライン授業が発展し、完全にメタバース化された授業が受けられるようになった。

イ オンライン授業が普及したことで、生身のからだで同じ空気を共有するのがよいという価値が絶対のものではなくなった。

ウ 親と移動しながら各地の学校に通うというサブスク化よりも、感染対策の完璧なオンライン授業を重視するようになった。

エ コロナ禍を経たことで、学校からだを運ばない授業から、実際に生身のからだを学校に運ぶことの重要性が見直された。

5 次の文は、——線部④のように筆者が考える理由を説明したものである。□に入る適当な言葉を、「コロナ」「人間」という言葉を使って六十文字以内で書け。

メタバースは、安くて便利なサービスとして出現し、□ものであるという点に、懸念を感じるから。

3

次の文章を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

武正たけまさといふ舎人(注)とねりの、かなしくしける子の、わづらふことありて、麝香(注)じやかうを求めけるに、よきを尋ねえざりければ、とかく思ひまはしけれど、

「さるべき人も、心の底、さばかりにこそ」とおしはかられて、色(表情)に出(立派な人であっても、心の底ではこのような思いでいるのだろうか)でざりけり。

思ひかねて、「侍従(注)じじゆうのだいなごん大納言ばかりこそ、優(心)の優しの人におはすれ。さりとも」と思ひて、かしこに参りて、中門(注)ちゅうもんのかたにたたずみ、見入(他)の人がれたれば、ことのほかに古くからさびたる家の、寢殿(注)ねどのの隅、所々破れたるに、空薫(注)そらだきの香、心にくく薫りて、まことに優なり。

とばかりありて、扇(注)あふぎをうち鳴らして、階隠(注)はしかくしの間にすすむ。「なにごとに來られたりけるぞ」と問(注)とまひ給ひければ、「しかしかのことの侍り」など聞えけり。まづ世の中のものごとがたりなどし給ひけるほどに、御簾(注)みすの破れ(申)し上げたより見ければ、白(注)まき衣、赤袴(注)あかばかま着給ひて、うや烏帽子(注)えぼししてぞ居給ひたりける。

出でむとしける時、紫(注)むらさの七重(注)ななへうすやう薄(注)うすやう様に、葉(注)はづつみにおしつみして、投げ出だされたりし、心にしみて、優におぼえしと語り侍りける。

『十訓抄』による

(注) 舍人＝皇族や貴族に仕える官人。 麝香＝薬の一種。

侍従大納言＝藤原成通。平安後期の人。 中門＝寝殿造の建物にある門。

空薫きの香＝どこからともなく香るようにたいた香。

階隠の間＝寝殿中央の階段を上った所にある部屋。

うや烏帽子＝礼装用の烏帽子。

1 ——線部①「思ひまはしけれど」を現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書け。

2 ——線部②「たたずみ」、③「問ひ給ひければ」の主語は誰か。その組み合わせとして正しいものを次から選び、記号で答えよ。

- ア ② 武正 ③ 武正      イ ② 武正 ③ 成通  
ウ ② 成通 ③ 武正      エ ② 成通 ③ 成通

3 この文章の内容として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 成通は世間話をしているときに、武正に麝香を授けた。  
イ 武正は望む麝香が手に入らないときも、困った顔をしなかった。  
ウ 武正は麝香の他に、白い衣、赤い袴などを成通からいただいた。  
エ 成通の家は新しい立派な屋敷で、風流な暮らしぶりだった。

4 次は、本文の内容をもとに先生と生徒が話し合っている場面である。

る。Ⅰ Ⅱ Ⅲ に適当な言葉を補って会話を完成させよ。ただし、Ⅰ

Ⅰ には、本文中から最も適当な言葉を五字で抜き出し、

Ⅱ・Ⅲ には、それぞれ十五字以内でふさわしい内容を現代語で答えなさい。なお、Ⅱ には「薬」という言葉を使うこと。

先生 武正は成通を頼りにして、その家を訪ねたのですね。

生徒A 成通の暮らしぶりは、家の中にⅠ が漂っていることな

どに表れています。

生徒B 武正は、成通に、Ⅱ という事情を話しました。

先生 成通から麝香をいただいた武正は、Ⅲ を感じた、と感想を述べていますね。



次の文章を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

「私」(中溝早希)は、中学校のソフトボール部のエースだったが肩の故障で強豪校へ進学できず、現在高校2年生である。友達の千夏が御木元玲と音楽室で歌の練習をしていると聞いてやってきたところ、千夏は玲の伴奏で校歌を歌い始めた。

やがて歌が終わると御木元玲のピアノも鳴りやんだ。校歌の余韻が音楽室に残っている。

「私、歌を歌おうにも楽譜も読めないから。声の出し方も知らないし。そしたら御木元さんが、まずは好きな歌を歌おうって」

千夏が小声で説明してくれる。

「それで校歌？」

「うん。この学校に来てよかったな、って思うから」

そうか。そんな人もいるのか。この特に取り柄のないような学校に来てよかったと愛着を感じる人を間近に見て、驚くと同時にちよつと恥ずかしくなった。成り行きで入っただけだから、もう余生だから、学校は適当に出ておけばいいと思っていた。

「週に一度、御木元さんに教えてもらって、あとは自分でなんとか——」

「教えてないよ」

御木元玲がきつぱりという。

「伴奏するだけ。ときどき一緒に歌うだけ」

「でもそれだけですつごく歌いやすくなるんだ」

千夏が熱っぽく語るのを、質問で遮った。

「あとは自分でなんとか、どうするつもりなの」

「だからさ、自分でも練習して、もしちゃんと歌えるようになったら、合唱部に入ろうかなって」

照れくさそうに千夏はちよつと俯いた。おいおい。声に出しそうに

なって危うく言葉を飲み込む。ずいぶん小さい目標じゃないの。しかももう二年の冬だっというのに今から入部するつもりなのか、このおめでたい同級生は。

あきれているはずなのに、胸がじんとしている。千夏の素直なパワーはどこから来るんだろう。もしかして、この子にはぐるぐるはないんだらうか。いや、と私はブレーキを踏む。たぶん、ぐるぐるのない人なんていない。それを忘れちゃいけない。ぐるぐるぐるぐる、きつと悩んでいる。楽譜が読めないというのがほんとうだとしたら、ずいぶん勇気が要ったことだろう。同級生に初歩から歌を習うなんて。これから合唱部に入ろうなんて。そういう気持ち、すごいと思う。余生じゃないんだ。今も現役でぐるぐるどろどろががつしている人が、なんだか光って見える。自分は降りてしまったはずなのに、そういう人の匂いを嗅ぎ分けてはむかついていた。

認めなくてはいけない。余生ではない、本道を生きている人に嫉妬していたことを。

「歌ってくれてありがとう」

ピアノの前にすわったまま、不意に御木元玲がいった。

「あ、ごめん、歌ってなかった。聴いてた」

「違う、マラソン大会のとき。ゴール前で、クラスの人たちが私を励ますために歌ってくれたでしょう」

そうだった。そんなことがあった。七キロ弱のマラソンにあまりにも苦戦する御木元玲を励まそうと、トラックを走る彼女の脇でたぶん千夏か誰かが合唱コンクールの曲を歌い始めた。そこに三々五々、声が集まった。とつくに走り終えて芝生にすわっていた私も、史香とコリエが立つのにつられて立ち上がった。しかたがないな、まあ歌ってやつてもいいかな、くらい気持ちだった。積極的に歌ったわけではない。たまに同居合わせただけだ。

「あの合唱団の中に中溝さんがいるのを見つけて、なんだか目の前が開けた感じがした。やらなくちゃいけないことっていうか、やりたいことっていうか、そういうのが見えてきた気がした」

それって、誤解<sup>②</sup>だ。ろくに練習にも参加せず、偉そうなことばかりいつていた私が急に応援する側にまわったものだから、この子は素直にうれしかったのだろう。案外かわいいのかもしれない。

「それで、何だったの、御木元さんのやりたいことって」  
黒い瞳が一瞬、揺れた。それからほのかな笑みが浮かぶ。まさか、歌でみんなの心をひとつにするのが夢だとかはいわないでほしい。返答に困るから。

「楽しく生きる」と

「は？」

「そのために、音楽があるんだ。ええと、音楽は目的じゃなくて手段だったってこと、かな」

ふうん、と私はいった。

<sup>③</sup>歩み寄りかけた御木元玲が、また遠ざかっていくのを感じた。

楽しく生きるって、今の私には思いもつかない。やりたいことも、やるべきことも、もう手に入らない場合はどうしたらいいんだろう。

(宮下奈都『よろこびの歌』による)

1 本文中の 線部ア～エの中から、品詞の違うものを一つ選び、記号で答えよ。

2 ——線部①について、次の(1)・(2)の各問いに答えよ。

(1) 「私」は、千夏のどのような点にあきれているのか。「合唱部」という言葉を使って、六十字以内で書け。

(2) 次の文は、「私」が——線部①のあとの部分で考えたことについて説明したものである。Ⅰには、本文中から最も適当な八十字の言葉を抜き出して書き、Ⅱには、三十字以内で、「余生」という言葉を使って書け。

「私」は、千夏は決して単純に物事を考えているのではなくて、Ⅰはずだと考え、勇気をもって目標に向かっていっていることをすごいと感じた。そして、これまで自分が、Ⅱ必要があると考えた。

3 ——線部②とあるが、「私」はなぜ「誤解」だと思ったのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 「私」は御木元玲を応援する側にまわりたくなかったのに、御木元玲は「私」が自発的に応援してくれたと考えているから。

イ 「私」はろくに練習にも参加せず、偉そうなことばかり言っていたのに、御木元玲は「私」のことをかわいいと思っているから。

ウ 「私」は人につられてしかたなく歌っただけなのに、御木元玲は「私」のおかげで自分のやりたいことが見えたと思っっているから。

エ 「私」は御木元玲のやりたいことを気づかせてあげるほど優しい性格ではないのに、御木元玲はそれを素直に喜んでるから。

4 — 線部③とは、どのようなことか。最も適当なものを次から選

び、記号で答えよ。

ア 御木元玲と打ち解けて話せそうだったが、御木元玲が思いがけない言葉を言い、「私」には理解できないと感じたということ。

イ 御木元玲に親近感を抱きはじめていたが、御木元玲の言葉がすばらしかったため、「私」の憧れの存在になったということ。

ウ 御木元玲の言う言葉を予想していたが、それと違う言葉を御木元玲が言ったことで、ライバル心に目覚めたということ。

エ 御木元玲が「私」に親しみをもってくれたと思ったが、御木元玲は「私」を困惑させようとしていると感じたということ。

5

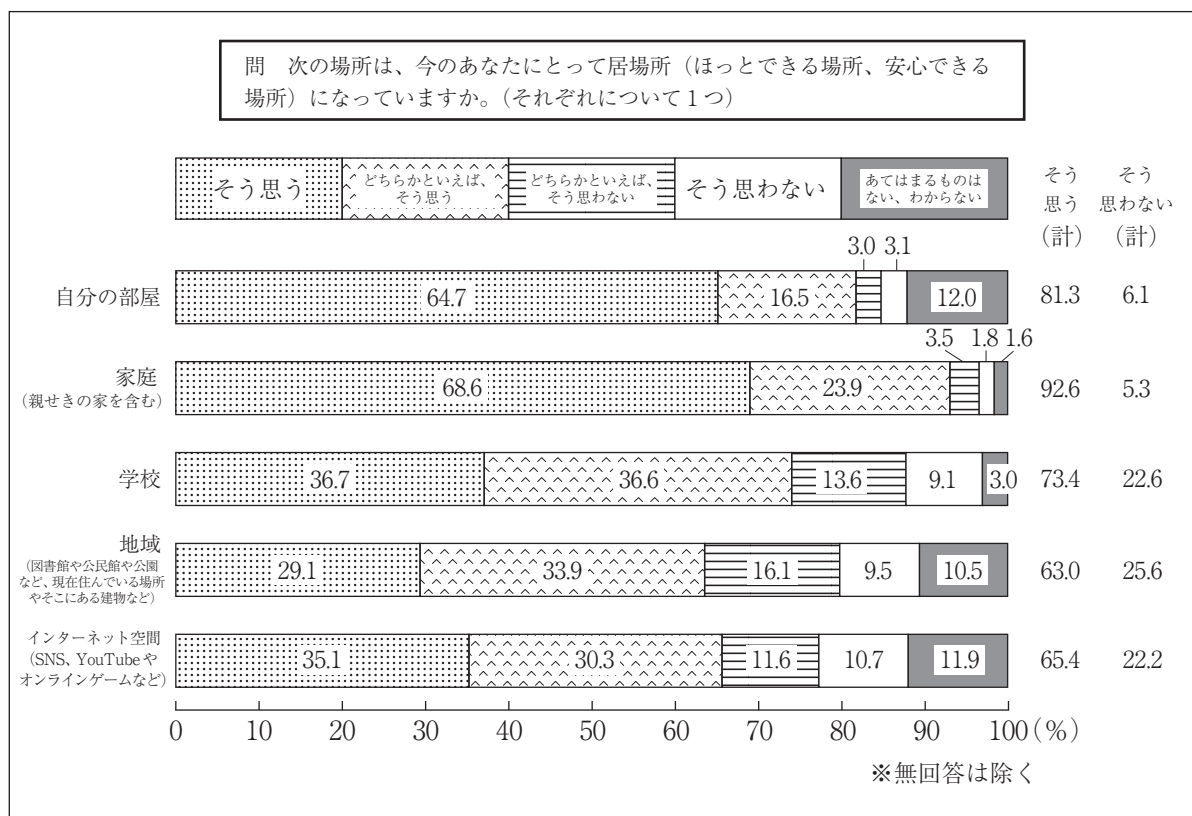
あとの資料1及び資料2は、内閣府による10歳～14歳を対象とした「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」の結果である。これらを参考にしながら、次の(1)～(6)の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

条件

- (1) 二段落で構成すること。
- (2) 第一段落には、資料1または資料2からあなたが読み取ったことを書くこと。
- (3) 第二段落には、第一段落をふまえて、あなたがどのように時間を使いたいと考えるかを具体的に書くこと。
- (4) 六行以上八行以下で書くこと。
- (5) 選択した資料を示す場合や、資料中の数値を使用する場合は、次の例にならって書くこと。
- (6) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

例 資料 ↓ 資料 1      数値 ↓ 30.5 %





問 ふだん家（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。（いくつでも）

(%)

年齢	テレビを見る	ゲームをする	勉強をする	インターネットをする	本を読む	家事をする	新聞を読む	ラジオを聴く	家族の看病をしたり、お世話をする	あてはまるものはない
10歳	81.2	80.1	70.8	54.2	47.6	28.8	8.1	3.3	3.7	0.4
11歳	78.1	79.0	71.3	57.7	42.3	29.5	6.0	3.1	4.5	0.6
12歳	74.4	73.4	61.4	72.0	34.1	21.5	3.1	5.1	3.8	0.3
13歳	70.0	72.6	59.0	71.9	35.8	24.2	2.3	2.9	2.3	1.3
14歳	69.4	64.6	71.8	75.2	31.3	23.8	3.1	6.8	1.7	0.3

※無回答は除く

(内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」より作成。)





